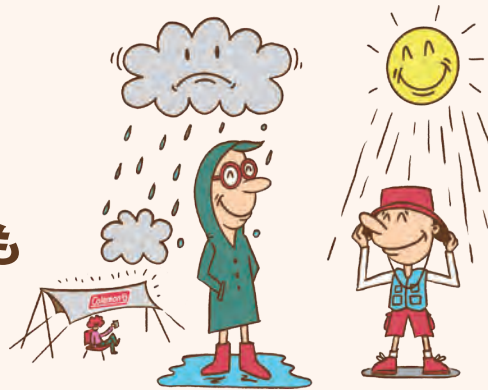


No.1

自然は偉大。
どんな状況でも
慌てずに。



自然は優しくもあり、厳しくもあることを忘れずに行動しましょう。
常に最新の情報を集め、事前準備を怠らないように。

自然は変わるもの。
用心しよう!

POINT 1 キャンプは決められた
場所で安全に!

POINT 2 荒天時には安全を
第一に考えよう。

POINT 3 たくさんの目で子どもを危
険から守ろう。

事前にできる
準備をしよう!

POINT 4 キャンプの前にキャンプ場
の下調べを。

POINT 5 暑さ・寒さ対策と気温の急
変に備えよう。

POINT 6 虫除け・虫刺されに
ご用心。

POINT 7 晴れの予報でも雨具の用
意を忘れずに。

No.1: 自然は偉大。どんな状況でも慌てずに。

POINT 1

キャンプは決められた場所で安全に!



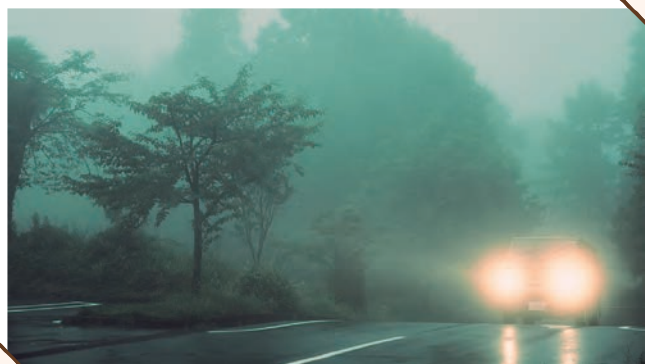
いくら素敵な自然が広がり、キャンプができそうな場所でも、勝手にテントを張ることは違反行為になります。

また、水はけの悪い場所、吹きっさらし、河原や中洲、急な斜面の近くなど、穏やかな天気では安全に思える場所でも急変するのが自然の恐ろしいところ。

キャンプはキャンプ場などに許可された場所で行いましょう。

No.1: 自然は偉大。どんな状況でも慌てずに。

POINT 2 荒天時には安全を第一に考えよう。



近年増えているゲリラ豪雨や、急な天候の変化、強風や大雨など、**荒天**時には**キャンプ場の指示に従いましょう。**

少しでも不安を感じたら、迷わずキャンプ場に相談を。

思い切ってキャンプを中止・中断するという判断も必要です。

POINT 3 たくさんの目で子どもを危険から守ろう。



設営や調理で取り込んでいるときも、少々お酒が入っていい気分で楽しんでいるときも、**子どもたちから絶対に目を離さないでください。**整備され、管理の行き届いたキャンプ場でも、子どもにとって危険な場所は尽きません。大切なお子さんを、たくさんの大人の目で見守ってください。

No.1: 自然は偉大。どんな状況でも慌てずに。

POINT 4 キャンプの前にキャンプ場の下調べを。



キャンプの前には、必ずキャンプ場の最新情報をチェックしてください。自宅からの距離、チェックイン/チェックアウトの時間、サイトの土壌状態や設備はもちろん、**標高や季節ごとの標準気温、有害な虫や野生生物の生息についても事前に確認しておきましょう。**また、キャンプ中のケガや急な体調不良に対応できるように、近隣の病院などを確認しておくことも大切です。

Memo: 保険証や常備薬を持って行くのも忘れずに。

POINT 5 暑さ・寒さ対策と気温の急変に備えよう。



帽子や日焼け止め、汗拭き用のタオルは必ず用意しましょう。

また、**熱中症予防のため、気温が高い日にはこまめに水分を摂ることも大切。**標高の高いキャンプ場では、夏でも日没後に急に冷え込むこともあります。気温の変化に備えて、上着や長そで、長ズボンなどを用意しておきましょう。

No.1: 自然は偉大。どんな状況でも慌てずに。

POINT 6 虫除け・虫刺されにご用心。



自然の中のキャンプ場には、蚊やブヨ、蜂、アブなど、いろいろな虫がいます。虫除けスプレーで肌を守り、蚊取線香、虫刺されの薬、刺された時の応急処置用にボイズンリムーバー(毒出し器)などを準備しておきましょう。また、草むらや森の中に入る時などは、**長そで・長ズボン**を着用し、**肌の露出を避ける**ようにしましょう。

POINT 7 晴れの予報でも雨具の用意を忘れずに。



標高の高いところの天候は変わりやすいもの。**雨具は、天気予報は晴れでも必ず持っていきましょう。**上下セパレートタイプのレインスーツがおすすめです。両手が自由に使えるので、設営・撤収などの作業が容易に。防水透湿性の素材を選べば、汗や熱を逃してくれるので快適です。また、膝下が雨や泥で汚れるのを防いでくれます。

Memo: レインコートは防寒着の替わりにも使えます。

No.2

世界に1つだけのサイトを
みんなで作ろう。



キャンプは自由なもの。
自分たちだけの最高のリラックス空間を作って大切な人たちと、
キャンプを思いっきり楽しみましょう！

POINT 1 キャンプはみんなで作る遊び！

POINT 2 準備や計画も楽しみのひとつ！

No.2: 世界に1つだけのサイトをみんなで作ろう。

POINT 1 キャンプはみんなで作る遊び！



テントを建てるのはパパ、ごはんを作るのはママと、なんとなく役割分担を決めてはいませんか？テントを建てたり、ごはんを作ったり、後片付け・・・すべてがキャンプ=遊びです。

お子さんを、ただ座らせておくなんてもったいない！一緒にイスを並べる、サラダの野菜をちぎるなど、キャンプの中には、たくさんの遊びがあります。

みんなで楽しむことを心掛けてみましょう！

POINT 2

準備や計画も楽しみのひとつ!



「今度のキャンプはどこに行こうか？」

「キャンプで何が食べたい？」

そんな会話からキャンプは始まります。

キャンプの計画を立てるとき、キャンプの準備をするとき、**一緒に
行く家族や友人とのコミュニケーションを楽しみましょう。**

そんなコミュニケーションから、誰の真似でもない、世界にひとつ
だけのキャンプ体験が生まれるはずです。

No.2: 世界に1つだけのサイトをみんなで作ろう。



No.3

ゴミは半分、思い出は2倍に。



ゴミはできるだけコンパクトにして、空いたスペースには遊び道具を。分別マナーを守りながら、自分が来たときよりもきれいにしてお帰りましょう。

POINT 1 サイトは来たときよりもきれいにしてお帰り。

POINT 2 必要以上の食材を持ち込まないようにしよう。

No.3: ゴミは半分、思い出は2倍に。

POINT 1 サイトは来たときよりもきれいにしてお帰り。



ゴミは、キャンプ場の分別ルールに従い、指定された場所にきちんと捨てましょう。焚火やグリルで燃やすことは厳禁です！
環境を守るため、そして次の人に気持ちよく使ってもらうために、
サイトや炊事場などはチェックアウト前にもう一度確認！
来た時よりもきれいにしてお帰ることを心がけてください。

Memo: ペグやロープのしまい忘れにもご用心！

POINT 2

必要以上の食材を持ち込まないように
しよう。



「この量じゃ足りないかも…」と、ついつい多めの食材を買い込んでしまいがちですが、出すゴミの量を減らすためにも、必要以上の食材を持ち込まないことが大切です。予備の食材を用意する場合は、持ち帰りが可能な日持ちの長いものや、小分けできるものを選ぶようにしましょう。

ゴミを減らす工夫として、家で下ごしらえしておくのも
Memo: Good! 洗い物も減って時短にも。

コールマン流フードロス対策

ゴミゼロレシピ 開発中

ただいま開発中です。

お楽しみに!

COMING SOON



No.4

NO密で、濃密なキャンプを。



キャンプ場にも、キャンパーにも。
ウイルス感染リスクを最小限にするためのアクションを
心がけましょう。

美しい自然の中で、家族や仲間と繋がりを持つことができる。
それがキャンプの魅力の一つです。
これから先も、キャンプを通して大切な人々と繋がり、そのひと
ときを楽しむために、新しい生活様式を取り入れましょう。

No.4: NO密で、濃密なキャンプを。

ウイルス感染リスクを最小限にするために。



- ☑ キャンプ場のある自治体の感染予防対策に関する最新情報を確認しておきましょう。
- ☑ 出発前に必ず全員の検温をするなど健康状態を確認しましょう。誰か一人でも熱がある場合は、無理をせずキャンプを中止する勇気を。
- ☑ キャンプ場への移動中に施設などに立ち寄る場合は、マスクを着用し、人との距離を保ちましょう。
- ☑ キャンプ場に滞在している間は、キャンプ場の感染予防対策のルールに従いましょう。
- ☑ キャンプ場では、手洗い・マスク着用を心掛け、密になるような状況は避けましょう。

No.5

元気なあいさつで、みんなを笑顔に。



キャンプ場はみんなで使うもの。

「こんにちは」の一言で、周りの人とキモチよく過ごそう。

アウトドアに限らず、あいさつはとても大切。

特にキャンプ場は、みんなで使う公共の場です。

挨拶をしないと何か落ち着かない感じがしませんか。

一声あるだけで、お互いの間に安心感が芽生え、もっと気持ちの良いキャンプになるはずです。

No.5: 元気なあいさつで、みんなを笑顔に。

あいさつをして、気持ちよく過ごそう!



チェックイン・アウトの際のキャンプ場の方への挨拶はもちろん、お隣のサイトや炊事場などですれ違う人にも挨拶をしましょう。挨拶をしなくてもマナー違反にはなりませんが、「こんにちは」の一言で、とても気持ちの良いキャンプになります! ぜひ試してみてください。

No.6

ギアにも愛情を、
長く付き合える
相棒に。

使い終わったら次に備えてメンテナンスを。
きっと、快適なキャンプライフを支えてくれるはずです。

日差しや雨風から守ってくれたり、暗闇を明るく照らしてくれたり。道具のおかげで、私たちは快適なひとときを過ごすことができます。お気に入りの道具は、できるだけ長く使いたいですよね。正しい使い方やメンテナンス方法を知るとは、製品寿命を延ばし、事故やケガを防ぐのはもちろん、資源を守り、ゴミを減らすことにもつながります。

POINT 1 ギアの正しい使い方を身につけよう。

POINT 2 できるだけ修理して使いましょう。

No.6: ギアにも愛情を、長く付き合える相棒に。

POINT 1

ギアの正しい使い方を身につけよう。



製品を購入したら、同封されている取扱説明書で使い方を確認しましょう。紛失してしまった場合は、コールマンのホームページで確認してください*。主要な製品は、動画で確認することもできます。

特に、火器の取扱いは十分に注意しましょう。

※ 対応していない製品もあります。

取扱説明書・How to Movie をみる



POINT 2

できるだけ修理して使いましょう。



「ポールが折れてしまった」「ランタンパーツの予備が欲しい」など、パーツの交換が必要になったら、パーツカタログで確認してみましょう。「お気に入りのテントが破けてしまった」「ランタンの調子が悪いんだけど原因がわからない」など、ご自分で修理することが難しいときは、メーカーに修理を依頼することも検討してみましょう。購入店かコールマン流山プロダクトセンターの「直送修理受付」で相談を。

パーツカタログをみる



No.6: ギアにも愛情を、長く付き合える相棒に。



直送修理受付をみる



No.7

焚き火を囲んで、
いつもはできない
会話を。



焚き火の灯りに包まれて、ゆっくりと心の距離を近づけよう。

焚き火の炎を見つめながら、パチパチと薪が音を立てるのをみんなが聞いていると、しだいに素直な気持ちになって、心の距離が近づいていくような気がしませんか。ソロキャンプでも自分や自然との対面がさらに深まっていくもの。焚き火を囲んで、人と人との絆を深める体験を、ぜひ楽しんでください。

POINT 1 「焚火台」でマナーを守った焚き火を！

POINT 2 地面への配慮も忘れずに。

POINT 3 焚火の終わらせ方にも気をつけよう。

No.7: 焚き火を囲んで、いつもはできない会話を。

POINT 1

「焚火台」でマナーを守った焚き火を！



焚き火はキャンプの醍醐味。昔は直火が当たり前でしたが、今は自然へのダメージや山火事への延焼、景観の問題などから、「焚火台」を使った焚き火が主流に。直火は、直火可能なキャンプ場の決められた場所でのみ可能です。河原で勝手に直火することも禁止されています。「焚火台」を使用する場合も、芝を燃やしたり、地面を焦がしたりしないように気をつけましょう。また、お隣にひと声かけてから焚火の場所を決めるのもマナーです。

Memo: 必ずキャンプ場のルールを確認して行いましょう。

POINT 2 地面への配慮も忘れずに。



「焚火台」を使っても、熱が芝生にダメージを与えてしまうことがあります。また、灰や火の粉が飛んで芝生や落ち葉に火がついてしまうことも。芝生や地面を守るために防熱素材の「焚き火シート」を使うことをおすすめします。

POINT 3 焚火の終わらせ方にも気をつけよう。



他の利用者や環境への配慮から、焚き火の後始末は重要です。理想的な焚き火の終わり方は、眠る前またはキャンプの撤収までに薪を燃やし尽くし、灰にしてキャンプ場の指示に従って処理することです。燃やし尽くせなかった場合は、バケツなどに水をはり、薪を水につけてしっかり消火してください。燃えている薪に上から水をかけると、灰がまったり、焚き火台にダメージを与えてしまう恐れがあります。濡れた薪はビニール袋などに入れて自宅へ持ち帰り、しっかり乾燥させて再利用しましょう。

 **Memo:** 焚火台に直接水をかけるのはNGです！

焚き火による灰や火の粉から地面を守り、
自然に負荷をかけずに焚き火を楽しみましょう！



2021 年新商品

ファイアーディスク (TM)



ファイアープレイスシート



ファイアーディスク (TM) の詳細をみる



ファイアープレイスシートの詳細をみる



No.7: 焚き火を囲んで、いつもはできない会話を。



No.8

みんなで守る
夜の静けさ、
自然の音色。



消灯時間を守り、静かな夜に響く、虫の鳴く声を楽しもう。

ついつい忘れがちですが、キャンプ場は公共の場。自分だけではなく、他のみんなも楽しんでいることを忘れないでください。特に夜には注意が必要。マナーを守って、かけがえのないキャンプの夜を楽しく過ごしましょう。

POINT 1 消灯時間を守ろう。

POINT 2 ボリュームにご注意を。

No.8: みんなで守る夜の静けさ、自然の音色。

POINT 1

消灯時間を守ろう。



楽しいキャンプの夜のひとときですが、深夜まで煌々とランタンを灯しておしゃべりするのはマナー違反。キャンプ場の消灯時間を守り、小さなお子さんや静かに過ごしたいキャンパーに配慮しましょう。また、林間のキャンプ場では、動物も近くで暮らしています。彼らの生活にも気を配りましょう。

Memo: 夜のキャンプ場は、思った以上に声が響くのでご注意ください。

POINT 2 ボリュームにご注意を。



大声で騒いだり、楽器やスピーカーを使用したりする場合の音量に気をつけましょう。

自然の中で開放的な気持ちになると忘れてしまいがちですが、周りにもキャンプを楽しんでいる人がいることを忘れずに。

楽器や音響装置の使用を禁止しているキャンプ場もあるので必ずご確認ください。

No.7: 焚き火を囲んで、いつもはできない会話を。



No.9

人にも大地にもやさしい、火の扱いを。



安全な火器の使い方をマスターして安心して快適なキャンプライフを。

キャンプライフを楽しませてくれるランタンやバーナー、グリル、焚火台などは、間違った取り扱いや不注意がもとで、事故やケガにつながる恐れがあります。使用の際は、必ず取扱説明書などで正しい取り扱い方法を確認してください。特に小さなお子さんがある場合は、十分にご注意ください。

POINT 1 燃料は同じメーカーのものを。

POINT 2 燃焼器具を使うときは、換気を忘れずに。

POINT 3 端折らず全部入れてください。

POINT 4 ガス缶の保管と処分にご注意。

No.9: 人にも大地にもやさしい、火の扱いを。

POINT 1

燃料は同じメーカーのものを。



燃焼器具の燃料は、指定されたものを使いましょう。LPガスタイプの場合は、燃焼器具とガス缶を接合する部分のバルブの形状や、ノズルの太さがメーカーごとに異なるため、ガス漏れを起こす恐れがあります。また、ガソリンタイプの場合は、燃焼効率がよく、器具を長持ちさせる効果が期待できるコールマン純正ホワイトガソリンを使用してください。純正以外の燃料を使用すると、不完全燃焼や異常燃焼、目詰まりなどによりパーツが破損する場合があります。

Memo: 怪我や事故につながる場合もありますので、必ず守りましょう。

POINT 2

燃焼器具を使うときは、換気を忘れずに！



テント内や車内など、密閉された空間で燃焼器具を使うと、不完全燃焼を起こし一酸化炭素が発生しやすくなり、**最悪の場合は生死に関わる危険が生じます**。絶対に使用しないでください。屋外であっても、使用中は多量の酸素を消費するので注意してください。また、使用中のランタンの上部や燃焼器具周辺は、**大変高温**になります。やけどや火災に注意しましょう。



Memo : コールマンの燃焼器具は屋外専用です。

POINT 3

LPガスバーナーでの大きな鉄板などの使用は危険です！



グレートより大きな鉄板などの使用でガス缶を覆うような使い方をすると、**放射熱でガス缶が熱くなり、中に入っている液化ガスの圧力が急に高くなって破裂する恐れがあり、たいへん危険です**。また、ダッチオーブンの使用や炭の火熾しなども同様の理由で禁止されています。

POINT 4

ガス缶の保管と処分にご注意。



ガス缶は、火気の近くはもちろん、車内、砂浜、アスファルトの上などの直射日光の当たる場所、40℃以上になる場所には放置しないでください。熱で容器の圧力が上がり、破裂の原因になります。また、ガス缶は必ず使い切り、キャンプ場のある自治体の指示に従い、正しい方法で処理してください。自治体で処理できない場合は、コールマン直営ショップで回収を行っています。

空のガス缶に穴を空ける専用器具は、コールマンでの取り
Memo: 扱いはありません。ホームセンターなどでお求めください。

No.9: 人にも大地にもやさしい、火の扱いを。



No.10

失敗こそ、
最高の思い出。

最初からうまくいくわけなんてない。
失敗したっていい。とにかく楽しむことが大事！

キャンプを終えて振り返ったとき、失敗こそが最も印象的な思い出だったりします。それは、不便や困難を乗り越えるのがキャンプの醍醐味でもあるからです。キャンプは、ひとりでも、仲間とでも、自由に作れる遊びです。失敗したらどうしよう・・・なんて考えず、まずキャンプを楽しみましょう！

POINT 1 キャンプは自分で作る遊びです。

POINT 2 みんなで「失敗」を楽しもう！

No.10: 失敗こそ、最高の思い出。

POINT 1

キャンプは自分で作る遊び。



誰と行くのか、どんなキャンプサイトを作るのか、どんなご飯を作って、そして何をして過ごすのか。ルールやマナーさえ守れば、あとは、すべてがあなた次第です！**自分がやりたいことを、自由にやれる、自分で作る遊び。**それがキャンプです。

POINT 2

みんなで「失敗」を楽しもう!



テントがうまく建てられない。火起こしに苦戦。せっかくのご飯が焦げちゃった、などなど。失敗したことがないキャンパーなんていないのではないのでしょうか。どんな熟練のキャンパーでも、最初はうまくいかないこともあったはず! でもその経験が、次のキャンプを成功に導きます。また、失敗を乗り越えた後、家族や仲間との絆が更に深まるはず。みんなで失敗を楽しんで、「あの時あんなことあったよね」と、笑いあうくらいの思い出にしてくださいね。

